

予算(検討・要求)過程におけるEBPMの取組の現状

令和3年度のEBPMの取組について(行革事務局方針)

予算検討・要求プロセスにおいて、会計部局と連携の下、ロジックモデル等の積極的な活用による政策のロジックやエビデンスの検討の取組を推進。事業の内容等に応じ、財務省主計局への説明においてロジックモデル等を活用
行政事業レビューにおいて、新規予算要求事業(10億円以上)及び公開プロセス対象事業について、原則、ロジックモデルを作成・公表

当省の予算(検討・要求)過程における活用

令和4年度予算(検討・要求)過程は以下のとおりであり、説明資料としてロジックモデルを活用

- 令和3年4月以降 各部局事業・予算要求内容検討(ロジックモデルの作成)
- 6月中旬～ 各部局のロジックモデルをEBPM推進チーム事務局で確認し、修正案を提示し調整(35事業)
- 7月上旬～ 各部局は会計課説明においてロジックモデルを活用(32事業)
- 8月末～ 財務省主計局説明においてロジックモデルを活用予定(29事業)
- 12月末 概算要求内示(ロジックモデルに修正があれば反映)

令和3年度行政事業レビューにおけるEBPMの取組

- 6月4日 公開プロセス対象事業について、ロジックモデルを作成・公表(5事業)
- 9月22日 令和4年度新規要求事業(10億円以上)について、ロジックモデルを作成し、レビューシートに併せて公表(2事業)

予算(検討・要求)過程の課題

本年度、予算プロセスとEBPMの一体的取組を行った結果、以下のような課題が散見された。

- 予算プロセスにおけるロジックモデルの活用については、具体的な活用方法及び評価基準の明確化が必要。
- 予算要求額や要求内容が確定しないことから、対象事業の選定に時間を要し、会計課説明までにロジックモデルの作成やブラッシュアップが間に合わないケースがあった。また、このような場合、EBPM実践担当者向け研修が受講されないケースがあった。

E B P Mの効果検証の取組における現状と予定

令和3年度の効果検証の取組における現状

- 令和3年度のE B P M対象事業の中から、重点フォローアップ事業（10事業）を選定し、効果検証手法等を提示（令和5年度に向けて）
- 重点フォローアップ事業の中から、効果検証方法の精度向上を図るため、効果検証対象事業（1～3事業）を選定予定（令和5年度に効果検証を実施）
- 平成30年度のE B P M対象事業について効果検証の実施（1事業）
- 効果検証方法等に係る相談支援（よろず相談所）の実施

令和3年度E B P M対象事業の効果検証(令和5年度の効果検証)の取組予定

- 令和3年度のE B P M対象事業については、令和4年度の事業実施後の令和5年度に事業効果を検証（自己点検）
- 重点フォローアップ事業については、上記に加え、事例集を作成し、効果検証を含めた好事例を横展開
- 令和3年度の効果検証対象事業については、令和5年度の行政事業レビュー（公開プロセス）の対象事業の候補案として会計課に提示（最終的に行政事業レビュー外部有識者会合で、公開プロセス対象事業を決定）
- 効果検証結果を踏まえた事業の改善

E B P Mの効果検証の取組の課題

平成30年度～令和2年度のE B P M対象事業についてフォローアップを行った結果、以下のような課題が散見された。

- 効果検証に取り組むに当たり、人的（効果検証に対応し、結果を分析できる専門的人材）、予算的（効果検証のための調査を実施する予算、効果検証方法に関連する予算など）、時間的リソースが不足している。
- 令和2年度の重点フォローアップ事業の効果検証手法については、データの取得が困難（特に対照群の設定など）なことから、提示した分析のレベルを下げるケースがある。